

特集

ピアの力を信じよう

学生同士で教え合うシステムの活用

ピアの力で教室は活性化する——ピアを活用したさまざまな教育スタイル
学生同士の結びつきが生む成果

三宅なほみ

——カリキュラム全体にピア・エデュケーションの思想を
年齢の近い先輩後輩関係を十分に活かす

久保真知子

——基礎看護技術教育にピアの力を取り入れる
学生が議論し行動することを支えるために

難波寛子

——小児看護における課題学習でピアの力を活かす

金城やす子

解剖生理学におけるピア・エデュケーションの試み

東照正

大規模講義で行うアクティブ・ラーニング——ピア・インストラクション

蔣妍

ピアの力を活かす場の整備——同志社大学ラーニング・コモンスの実際

山田礼子

【新連載】

専任教員養成講習会における e ラーニング活用後の報告・1

齋藤綾子

“医療安全力”を育むリスクアセスメントトレーニング・1

齋藤奈緒美, 石川雅彦

【連載】

日本赤十字広島看護大学の試み・10

山村美枝ほか

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●臨床現場において、看護師が「おかしいな」と感じる感性は非常に重要です。外来や病棟での様子、家族との会話、医療者への態度、「おかしいな」を感じる瞬間は溢れています。そして、患者さんに最も接する看護師には、その感覚とそれへの対処が求められます。当然看護教員にとっても、対象が学生に変わるだけで、求められるものは同じでしょう。ただ、クリティカル・シンキングと同様にこの感性は看護職に限らず、一般的に生活していくなかにも共通に必要なものです。●皆さんも、毎日の暮らしのなかで「おかしいな」を感じることは多々あるでしょう。むしろ感じないほうが不思議なほど、世の中は「おかしいな」でいっぱい。それに気づく感性を磨き、「おかしいな」を解決する方法を考え、実行に移す、これは私たちみんなの課題です。

…大野

●小誌は教員の皆さんに向けて「教え方」を紹介しているが、一方で学生は、それに応えるだけの学びの準備を整えているのだろうか。受け手の準備不足のためにせっかくの指導が伝わらない、なんて事態が起こってはいないだろうか。●今回の特集はこんな問題意識を出発点にしています。学業への集中が困難な事例として、目に見える変化に限定して取り上げましたが、当然のことながら、そもそも学生の状態は「おかしい」or「おかしくない」とはっきり二分できるようなものではありません。すべての学生のコンディションが毎日(毎時毎分)それぞれのグラデーションをもって揺れ動いているというのが実状なのだと思います。この範囲から振り切れてしまいそうな変化を察知しての対応(本特集)とともに、“おかしくない”学生の様子にも気を配り、学びの準備を手伝ってあげてください。

…加藤

看護教育 第55巻 第4号 2014年4月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2014, Printed in Japan

(1部)定価: 本体1,400円+税

2014年・年間購読料(増大号を含む12冊): 冊子版16,710円, 冊子+電子版/個人19,710円, 冊子+電子版/共有22,200円,

電子版/個人16,710円, 電子版/共有19,200円(いずれも税込, 送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/14/ ¥500/ 論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき500円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

本誌「看護教育」では、みなさまの誌面へのご参加をお待ちしています。

(2011年3月1日改訂)

掲載欄

●**看護教育研究**：看護学教育についての研究で、独自の知見が認められる論文／●**実践報告**：看護学教育の実践に関する内容で、発表の意義が認められる論文／●**調査報告**：看護学教育についての調査で、発表の意義が認められる論文／●**短報**：報告に準じ、発表の意義が認められる論文(「目的」「方法」「結果」に構成を絞ることを原則とする)／●**スクランブルゾーン**：看護教育に関するご意見や情報交換の欄。上記4区分に該当しない、本誌内容へのご感想やエッセイです(本欄のみ研究論文としての形式は不要)。

ご投稿の前に

●未発表のものに限ります

国内・国外を問わず、他誌に掲載されたもの、掲載予定のもの、自らあるいは第三者のホームページに収載または収載予定のものはご遠慮ください。

●倫理的配慮について

十分な手続きと、必要場合は対象者の同意を得て執筆・投稿をお願いします。

●他論文からの引用・転載は必要最小限に

無断転載は固くお断り致します。必ず原著者の許諾を得てください。

●原則として返却しません

投稿原稿は、採否にかかわらず返却いたしません。

●掲載には査読審査(3か月程度目安)を要します

投稿原稿に対しては、採否にかかわらず原稿受領のご連絡を致します。お問い合わせの際は、受領連絡に記された受付番号をお申し出ください。

●論文の採否について

論文の採否は論文審査委員の査読を経て決定致します。審査の結果、原稿への加筆、修正をお願いすることがありますので、予めご了承ください。

●著作物について

本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は医学書院に譲渡されたものとします。著作者ご自身のこれらの権利を拘束するものではありませんが、再利用される場合には事前に弊社までにご一報ください。

●掲載の場合には

掲載誌と規定の原稿料をお送りいたします。

執筆規定

●原稿表紙

希望する掲載欄を明記した上で、次の項目を漏れなく記載する。論文名、執筆者名(ふりがな)、所属機関、連絡先(複数で執筆した場合は代表者)の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ、Eメールアドレス(推奨)。

●原稿分量

「看護教育研究」は8000字、「実践報告」「調査報告」「スクランブルゾーン」は6000字、「短報」は2400字を上限とする。図表等はこれに含む。※図表は、大小にかかわらず1枚400字相当として換算(引用文献も字数に含む)。

●本文

B5判あるいはA4判に横書きとする。

●図表・写真

図表・写真は本文には挿入・貼付せず、別紙(別ファイル)とする。引用・転載の場合は出典を明記する。挿入箇所は本文に明記する。

●引用・参考文献

本文中の該当箇所の右上に番号を付した上で、本文末尾にまとめて表記する。原則は下記の通り。

・書籍の場合

番号) 著者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

番号) 著者名(翻訳者名)：論文名、編者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

・雑誌の場合

番号) 著者名：論文名、雑誌名、巻(号)、開始ページ—終了ページ、発行年。

原稿送付先

●Eメールの場合(推奨)

メールのタイトルを「投稿論文」とし、原稿は添付ファイルとする(5MB以下)。メールの本文に連絡先を明記して、下記までご送信ください。

kankyou@igaku-shoin.co.jp

●郵送の場合

原稿プリントアウトにデータを保存したメディアを添付し、下記までご送付ください。

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

(株)医学書院看護出版部「看護教育」編集室

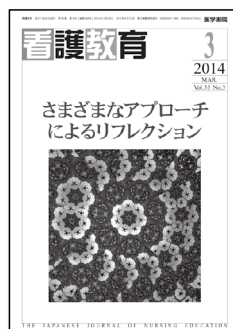
Vol.55 No.3

2014 年 3 月
特集

さまざまなアプローチによる リフレクション

「リフレクション」は「省察」「反省」「振り返り」などと訳されますが、どの訳語をとっても、どことなく内向きなイメージがあります。もちろん自らを問う以上、内面に向かうのは間違いないのですが、「リフレクション」の方法までもが、内向きなもののばかりである必要はありません。授業者自らが、授業そのものを具体的に振り返り気づきを得る「授業リフレクション」を行うのは珍しくなくなりました。しかし、せっかくリフレクションするのに、何か一つの方法に執着して、さまざまなツールや場があることに気づいていない、気づいていても活かしていないという傾向が否めません。今回の特集は、先生方にリフレクションの幅広さを知っていただき、構えることなくオープンマインドで取り組むことにより、もっと日常的に授業を「振り返る」ことができるよう願って組まれました。さまざまなツールや場を利用して授業リフレクションを積み重ねていけば、それが授業研究として成立することにも注目いただきたいと思います。

- 日々のふり返りを積み重ね、リフレクションを深化させよう 田村由美
- 授業改善のためのリフレクションを支援するツールや手立ての活用 大山牧子
- 複数の学校の教員が参加して行う授業リフレクション——チームの立ち上げから学校の垣根を越えての実施まで 湯谷孝太郎／岡元裕子／堀裕子／内田武将／波多野文子
- PF-NOTE を活用した教員による学生評価のリフレクション 平山朋子
- 学習ノートをリフレクションツールとした授業の実践 江川美由紀／後藤多美子



Vol.55 No.2

2014 年 2 月
特集

効果的な授業の工夫としての e ラーニング

情報通信技術 (Information and Communication Technology: ICT) の発展に伴い、さまざまな教育分野で e ラーニングの活用が広がっています。しかし、看護基礎教育における実践となると、学校全体として力を入れて取り組んでいる一部の施設を除き、なかなか身近に感じるものの、ICT に対する苦手意識や、「システムを入れるお金がない」「効果が出るか不安」といった理由から、導入に踏み出せない方もいらっしゃるかもしれません。本特集では、看護基礎教育の現場が抱える課題を解決するための一手段として、ICT を活用する可能性を考えます。日々の授業を効果的なものにするためにどんな工夫ができるのか、その過程で遭遇する問題点を e ラーニングはどう解決しうるのか。もし、皆さんが日々感じている課題に対しても有効だと判断されたとしたら、ぜひ実際に e ラーニングという手法を取り入れてみてください。

- e ラーニングは看護教育の抱える問題をどう解決するか 真嶋由貴恵
- CanGo プロジェクトの展開——看護教育課題の解決に向けた開発からタブレット PC を用いた現在の運用まで 真嶋由貴恵／中村裕美子
- 対面講義を充実させるための e ラーニング 佐藤亜紀／松岡智恵子
- 自学自習を促進するための e ラーニング 吉川千鶴子
- 看護専門学校における e ラーニングの導入例 溝道裕子
- 「e スクール」10 年の実績にみる社会人教育の可能性——早稲田大学による通信教育課程のねらいと成果 西村昭治
- ゼロからの e ラーニング導入——映像制作方法と YouTube の活用方法 金子大輔／SNS やソーシャルメディアの教育利用 村上正行



[2014 年 1 月号 (Vol.55 No.1)]

授業研究のすすめ

[2013 年 10 月号 (Vol.54 No.10)]

対話のスキルを
教育に活かす！

[2013 年 12 月号 (Vol.54 No.12)]

移動助技術の指導方法
ボディメカニクスを実践に活かす

[2013 年 9 月号 (Vol.54 No.9)]

2014 年の国試に向けて
できること

[2013 年 11 月号 (Vol.54 No.11)]

助産師教育の現状と課題

[2013 年 8 月号 (Vol.54 No.8)]

教育の質を高める学習方法
いまから始める協同学習

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2012 年 2 月号 (Vol. 53, No. 2) 以前の号は、東亜ブック (TEL 03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2012 年 3 月号 (Vol. 53, No. 3) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL 03-3817-5659) にお願ひします。